

## 平成27年度 前期授業改善の結果及び後期授業改善の取組について

### 1 「前期の成果指標」の結果 ※極力、数値で示すこと

<p>(1) 2,3年生は国語・算数とも全国平均を上回る観点で2年生は6観点、3年生は5観点ある。しかし、4,5,6年生は1観点しかない。上位層と下位層に2極化している傾向がある。</p>	<p>(2) 読む力は、2,5,6年生が目標値を上回ったが、3,4年生が目標値を下回った。4年生は昨年度より21.3ポイント低い。書く力では、どの学年も目標値を下回り、また昨年度よりも5ポイント以上下回った。</p>
<p>(3) 言語についての知識・理解・技能では、5学年全てが目標値、区と全国の平均正答率を上回り、平均にすると4.9ポイント上回ることができた。昨年度(2.3ポイント)との比較でも、2.6ポイント上回った。</p>	<p>(4) 家庭学習週間には、各学年でめやす時間を設定して取り組んでいる。低学年はほとんどの児童がめやす時間を達成できているが、高学年になるとめやす時間が長くなるので達成できない児童が各クラス数名いる。</p>

### 2 後期の授業改善の重点的な取組

#### (1) 課題(課題と、課題であることを示す学習状況調査の結果等)

<p>国語：書く力に関しては、全学年に於いて目標値を1.2ポイント～28.9ポイント下回った。作文指導や感想・意見を記述する活動を通して文章表現力の充実を図る。読む力に関しては、3・4年生において下回った。引き続き文章読解の指導の充実をはかりさらに読書活動も充実させていく。</p> <p>算数：数学的思考方に関しては、2・3年生では、5ポイント以上目標値を上回ることができたが、4・5・6年生は下回った。校内研究で取り組んでいる算数科を核として問題解決型の授業の充実を図り、数学的な考え方を伸ばしていく。</p> <p>理科：4・5・6年生とも観察・実験の項目が目標値を下回った。観察・実験を通じた体験をもとに知識の習得を目指していく。</p> <p>社会：観察・資料活用の技能において、4・5・6年生とも目標値をやや下回ってしまった。資料を基に考える活動を充実させ、的確な判断力を身に付けさせる。また、観察・資料活用の技能に関しては、グラフや地図の読み取る活動を多く取り入れ、子どもたちが自ら気付く学習を展開していく。</p>
---

#### (2) 課題解決のための主な取組と成果指標

<p>①主な取組(※効果測定の時期や方法についても含めてください。)</p> <p>主な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 中川学習スタンダードを定着させ、しっかり話を聞く姿勢、集中して学習する姿を身に付ける。</li> <li>2 基礎・基本の定着             <ol style="list-style-type: none"> <li>①書く力に関しては、作文指導や感想・意見を記述する活動を通して文章表現力の充実を図る。</li> <li>②学習の定着が不十分な児童に対しては、少人数指導や放課後学習を生かして個別指導を充実させ、基礎的な既習学習の習得を図る(東京ベーシックドリル活用)。</li> </ol> </li> <li>3 理科・社会においては、観察・実験を通して生活体験や既習学習から自分の考えを述べるができるようにする。ノート指導を充実させ、観察・実験の予想、用具の扱い方、実験記録、結果、まとめ等ノート指導の充実を図る。</li> <li>4 家庭学習週間の取り組みによる中川家庭学習の定着化及び5,6年生の自学学習への移行と保護者の家庭学習支援への啓発を図る。また、年間2回の読書月間を設定し、読書の習慣を育てて想像力や語彙力を豊かにし国語の力を伸ばす。</li> </ol>
<p>②成果指標及び目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年も国語算数の観点で2ポイントアップを目指す。</li> <li>・4年については、すべての教科で2ポイントアップを目指す。</li> <li>・4,5,6年の理科については、どの学年も3観点とも2ポイントアップを目指す。</li> </ul>

◆ 1 平成27年度【前期】授業改善の取組

学力D層・E層の児童・生徒数を40%以下にするための取組 ※教科を特定した取組も可			
目標	○約2割弱程度の学力下位層の基礎学力向上を目指す。	方策	○少人数指導における習熟度別指導を通して個別支援を充実させる。 ○放課後学習では、児童の習熟に応じた教材を作成し、基礎・基本の徹底を図る。
成果指標	○中川学習状況調査において算数・国語とも正答率を2ポイント上げる。	取組指標	○計算のやり方を放課後学習を含め身につけていく。 ○「算数習熟度別指導」「放課後学習クラブ」「夏休みチャレンジ学習」等で個別指導を実践する。 ○児童の実態を把握し、朝学習を充実させる
区の共通課題①「読む力・書く力」を育成するための取組			
目標	○一人一人の「読む力・書く力」における基礎的な学力向上を果たす。	方策	○読書活動を通して、読むことの楽しさ、読むことの必要性を体感させる。 ○ノートに分かったことや自分の考えをまとめることで文章を書く力をつける。
成果指標	○墨田区学習状況調査において前年比4%アップを目指す。 ○国語力のアップ	取組指標	○読書月間、読み聞かせ等の取組で読書活動を推進する。 ○個別指導の充実を図る。
区の共通課題②「言語力・考える力」を育成するための取組			
目標	○既習事項を活用し、自らの力で課題を解決し、互いに考え方を高める力を育成する。	方策	○算数科の研究を通して自力解決型指導法の校内研修を行い、授業力向上に取り組む。 ○朝学習に言語事項の指導を行ったり、言語に関する単元の充実を図る。
成果指標	○墨田区学習状況調査において言語についての知識、理解、技能を2ポイント上げる。	取組指標	○校内研究授業、模範授業の参観、研究全体会等の取り組みを通して授業力の向上を図り、児童の課題解決能力を高める。
区の共通課題③ 家庭学習の充実に資するための取組			
目標	○年3回の家庭学習週間を核に、家庭学習を習慣化するために各学年×10分に取り組む。	方策	○全校での取り組み、習慣化を図る。 ○読み、書き、計算など基礎学力の充実を図る ○家庭学習カードを毎日記入することで、学習への取り組みを促す。
成果指標	○家庭学習カードを作成し毎日の取り組みが分かるように家庭からの一言や児童の反省を書かせ意欲を高める。 ○児童学習アンケートで家庭学習の定着化をみる。	取組指標	○家庭学習カードを活用し、国語の読みや漢字の書き取り、算数の計算を中心に取り組み基礎学力の向上と家庭学習の習慣化を目指す。 ○5・6年生は、自学学習ができるように計画する。

◆ 2 3月・4月における定着に課題のある指導事項の復習に関わる具体的な取組

◆主な内容	算数全般における割り算（特に小数の余りのある割り算、分数の割り算など）、自ら立式するなど思考を必要とする文章題、定規やコンパスなど道具を使い、作図をする問題。
◆取組	東京ベーシックドリルやフォローアップワークシートなどを活用し、苦手と思われる学習内容の充実を図る。また、放課後学習での個別指導で苦手箇所の克服を図る。
◆成果目標	年間3回行っている中川学習状況調査（4月25日実施予定）で割り算など苦手項目の達成率を約6割から8割を目指す。